

専修大学LLだより

目次

特集 留学のすすめ

イギリス・ブリストル留学	2
フランス・リヨン留学	3
ドイツ・ハレ留学体験	4
中国・上海留学で外国人になる	5
なぜ留学するか（オレゴン）	6
留学情報	7
LL インフォメーション	
セミナー開催のお知らせ（スペイン語、通訳検定）・教材紹介 ...	8

今回の号は、「留学のすすめ」です。何だか、国際交流課の宣伝パンフのようになってしまいました。でも、外国語を学ぶ意味を、いくら抽象的に論じても、「百聞は一見にしかず」でしょう。言葉とは文化そのものだからです。黙々と机に向かう勉強も大切（！）ですが、言葉は、何よりも文字通りに「生きて」いますから、身体化されない言葉は、単なる死んだ知識にすぎません。留学という機会に、そのあたりに深く気づくのではないのでしょうか。生きた言葉を身につけるためにも、耳と目と口を総動員した外国語の訓練のためにも、LL 教室の機材、資料、自習室をおおいに利用して、しっかりとした基礎を作り上げてから外国に行けば、留学も何倍も充実した経験になることでしょう。一皮むけた自分を目指して下さい！

イギリス・ブリストル留学

私は高校の頃から「留学をしたい」と考え続け、大学3年にして、その思いがやっと叶い、3年次の6月末から2月末まで、イギリスのブリストル大学に留学をすることができました。ブリストルはイギリスの首都ロンドンから西へ、電車で約2時間の距離にある港町です。緑も多く、犬の散歩をする人やジョギングをしている人が多い、のびのびとした穏やかな空気の流れる町でした。

最初の3ヶ月は大学に併設している語学学校へと通いました。週5日、朝の9時から午後4時まで授業を受け、イギリスの文化や、英語を話す、聞く、書くなどの勉強をしました。私は典型的な日本人で、苦手な「話す」「聞く」が全くできずに、とても苦労しました。私のフラットには、イギリス人と中国人と一緒に住んでいたのですが、イギリス人のフラットメイトとは、普通にはほとんど話ができませんでした。彼女にはとてもゆっくりと話してもらい、辞書を手放せない毎日でした。中国人の友達とは、漢字を書き合って意思の疎通をはかっていたりしていました。しかしこのままではいけないと思い、テレビやラジオを買って、意欲的に英語を聞くように心がけました。また、イギリス人でない人の英語は比較的聞き取りやすかったので、自分から話すように努めていました。その成果があったのか、語学学校が終わり、大学が始まる頃には、日常生活で相手の話すことを理解し、自分の言いたいことをなんとか伝えられるようになりました。しかし大学の授業となると、また話は違って、私は文学の授業を取っていたのですが、作品の解釈などを理解するのは大変な作業でした。聞き取った単語

をノートに羅列して終わり、という日も多々ありました。

大学の授業は週に3回くらいだったので、その他の日は授業で課題として出された本を読んだり、友達と一緒に食事を作ったり、映画を見に行ったりしていました。またイギリスではパブ（居酒屋？）がとても有名で、町のいたる所にパブがありました。イギリス人にとってビールを飲むのは、最大の楽しみの1つであるようにすら見えました。誰もが金曜日の夜にはパブへと出かけます。私もよく友達とお酒を飲みに出かけました。そこで今日あったことなどを話すのは、とても楽しいひとときでした。

私が留学してよかったと1番に思うことは、友達の大切さを知ったことです。イギリスという国で、日本と離れて生活したことによって、日本にいる友達の支えを、とても大きく感じました。もちろんイギリスでできた友達とは今も連絡を取り合っています。カタコトながらも、お互いの悩みを相談しあったりして、国の違いを乗り越えることができました。普通に日本で生活していたのではわからなかった、さまざまな国の事情についても学ぶことができたと思います。語学だけの勉強なら日本でもできますが、ある国の文化や考え方の違いなどは、実際に経験してみないと分からないことです。これらの面において、とても貴重な経験ができました。この留学で得た友達や知識を、これからも大切にしていきたいと思っています。

文学部英米学科 4年

齋藤 三咲



フランス・リヨン

1999年2月10日から2000年2月14日。こう書くと、もうなんだかえらく懐かしい気さえしてくる。ちょっと前のことなのにだ。ふとした時に、まるで陽炎のように、リヨンのそれらの月日がゆらゆらと思い出される。それは陽炎のくせにくっきりとして、やたら濃い色をしている。リヨンでの生活は特別だったんだとつくづく思う。

リヨンはフランス第二の都市と呼ばれていますが、日本人の目には、呼ばれているほどの都市とは映りません。しかし、確かにリヨンはフランスの中では、かなり都市化している街の一つなのです。規模だけ言えば、東京の町田と思えばいいでしょう。一日あれば、ある程度の観光はできるし、そんな街で留学生活の前半期をリヨン第二大学内の語学学校で、後半期を大学に通いながら過ごしました。語学学校では、もちろんフランスにフランス語を学びに来た、国籍も年齢もばらばらの人達が、フランス語を唯一共通のコミュニケーションの道具として、互いの文化・習慣や、外から見ていたフランスと、実感としてのフランスとの違いなどを話し合ったりして、興味深いものがありました。大学では、映画と写真の授業をとりましたが、始まって早々、大学側に対して、教授と学生のストライキがあり、二週間ほど授業がありませんでした。それは待遇の改善を求めるストでした。本当に掛け声をかけながら行進して、学長室に乗り込んで行くんです。決して権力に屈しない強い意志が、脈々と生き続けているのを感じました。日本では、波風を立てないことが良しとされるところがあります。確かにそれはそれで良い場合もあるか

も知れませんが、本当に怒らなければならぬ時には怒らなければならぬと、改めて思いました。怒らないと、逆にそこに付け込まれる場合が往々にあるので、注意が必要だと思うからです。

実際、フランスに行って、僕は精神的にタフになったようです。フランスとタフ。なんだか妙に思われるかもしれませんが、フランスとはタフな所なんです。小銭がないと売ることを拒否されるパン屋や、夏の間一時的に閉鎖される学生寮や、一年中物乞いをしている人達がいたり、一人では立ち寄れない地区があったりします。日本で普通に学生をやっているよりは、幾分タフにならざるをえない。タフになっていくと、ハプニングを笑えるようになります。怒ったり笑ったり泣いたり喜んだり懐かしんだりする、そんな普通のことを、特別な場所で再発見していくのも良いんじゃないですかね。

文学部人文学科 4年
馬場 拓真



ドイツ・ハレ留学体験

ドイツから帰ってきて、気づいたらもう4ヶ月が過ぎようとしている。早い。向こうにいた初めの頃は、1ヶ月が長くて仕方なかったような気がするのに。日本に住んでいるドイツ人も言っていたが、日本はドイツに比べて時間が3倍の速さで過ぎていくように感じるらしい。そして悲しいかな、お金もまた...

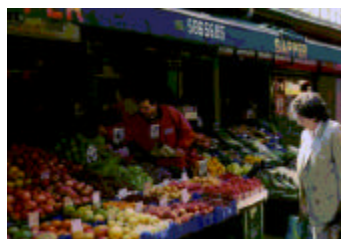
ところで私がドイツに留学していた（といっても大したことはしてない。単位もほとんどとれてないようなもんだし）のは、去年の2月から今年の2月にかけての1年である。ドイツに留学しようと思ったのは、本当に突然だった。その前の年に、これもまた突然ドイツに一人旅に出て、なんだかむしように留学したくなったのだ。でも決めたのは突然だったくせに、絶対に行きたかったから、周りに迷惑をかけまくってしまった。特に出発の直前まで私の情けないドイツ語を面倒みてくださった先生には、心から申し訳なかったと思っている。

と、身の上話はいいとして、ドイツについて気づいたことでも書いてみたい。例えば、ドイツといえば、とりあえずビールとソーセージが思い浮かぶ人も多いのではないだろうか。（あれ？そんなにいない？）でもドイツのソーセージって、実はずいぶんたくさん種類があったりする。お肉屋さんで「ソーセージ下さい」なんて言っても、怪訝な顔して、「どれ？」。ショー・ケースにズラッと並んだソーセージ（レバーペーストの入ったのとか、サラミみたいなのだとか、とにかくたくさん）を見せつけられることだろう。茹でるものから、焼くもの、さらにパン

に塗るものまで、まさにオンパレード。しかも日本のスーパーのように、パックで売っているなんてことはなく、必ずお店の人に「これとそれ下さい」と言わなければならない。これは初めのうち、言葉が通じなくて困る第1歩だと思う。同じことがチーズ屋、パン屋についても言える。最初は「Das. Bitte .」と指さして買ってみよう。そのうち慣れる。ビールについては、私はあまり好きではないので、ここでは省略する。ごめんなさい。でも1DM（今は約50円か）2枚出せば、学生街ならジョッキでビールが飲める。しかも1Lのやつね。でもぬるい。あんまり冷やさないらしい。

と、ドイツとはこんなところ。一言で言えば「一生分のジャガイモを1年で消費したような気になる国」または「雨が降っても傘を差さない国」だと思う。みなさんもドイツに一度行ってみてはいかがだろうか。きっとあなたも留学したくなる...かも。

文学部人文学科 4年
班 目 紀 子



中国・上海留学で外国人になる



中国留学の日常生活は、月から金までの午前中が授業で、早朝には太極拳、午後には中国文化などの自由参加の授業があります。その他はフリー。私は上海大学の学生とバスケットをしたり(中国ではスラムダンクがまだ流行っていて、バスケは大人気)、中国人の家に遊びに行ってカエルを食べたり、また最初の頃は、中国人で日本語を学びたい人との相互学習というものがあり、お互いの言語を教えあう事をしていました。食事は、ほとんど外食。夕方になると学校の傍に屋台が並び、上海大学の学生を相手に、羊肉の串刺し 20 円、鶏の心臓を油で揚げたもの 10 円、チャーハン 40 円。どの料理も、うまい、安い、多いです。中華の他に、日本、韓国料理、マクドナルド、KFC も食べる事が出来るので、中華に飽きた人は、そこに行くと脂っこい中華から解放されます。

中国留学の魅力の一つとして、世界各国の人が同じ寮で過ごすという点があります。実際私のルームメイトは韓国人(一人部屋も有ります)、隣はマレーシア人とスウェーデン人でした。皆、中国語を共通語として友達を作る事ができ、お国料理を作って一緒に食べたり、誕生日を一緒に祝ったり、ビールをケースごと買って、机・椅子を全部出して教室でダンスパーティーしたり

と様々。二ヶ月間の夏休みには、上海の海に自転車で泳ぎに行ったり(真っ黄色で泳げませんでした)、日本語教師をしたり(中国の日本語熱はすごいです)、少数民族の苗族に会いに行ったり、自分次第で、やりたい事のできる環境があります。

私は、子供の頃に読んだ『三国志』に憧れ、また大学時代の足跡を残そうと、この一年間の中国留学に応募しました。さすがに一年留学となると、かなりの不安があったのを、今でも覚えています。でもその不安も、今になっては小さなもので、留学時には自分の想像以上のものを得られました。他の留学生と話したり、中国の文化や価値観を通して、日本という国を客観的に見られた事、そして中国人だけでなく、各国の友人を作る事が出来た事、中国各地を自分の目で見られた事など、この留学は私にとって、学生時代の最大のイベントでした。そしてそこで得た事は、これからの人生に大きく影響すると思います。今、留学を悩んでいる方は、ぜひ試してください！これから国際交流課へ行ってください！絶対、後悔はしませんから！

商学部商業学科 4 年
坂 田 稔



なぜ留学するか(オレゴン)

私は昨年から今年にかけて、オレゴン大学に交換留学してきました。当然、向こうで様々な体験をしましたけれど、その体験記は、ここでは書きません。なぜなら、これから留学を希望する皆さんに、心に留めて頂きたい事が別にあるからです。留学での体験は、年々そう大きく変わる訳ではありませんし、私が交換留学の第1期生でもないのに、以前に留学した先輩方が残した体験記を国際交流課で読んで下さい。また、先輩方や今期留学した学生の記録もあると思うので、直接尋ねてみて下さい。快く相談にのってくれると思います。緊張するかもと思いますが、留学したら何事も積極的に行動しなければいけないので、それに比べれば小さい事です。

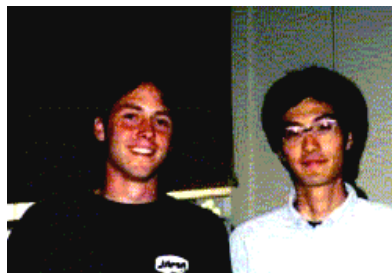
さて、本題です。私はこれから留学を希望する、または興味ある学生さん達に、「なぜ留学したいのか」という目的意識を持って欲しいと思います。具体的には、勉強したい科目を決めて欲しいのです。ただ英語だけを上達したいのであれば、夏期、春期留学プログラムというものがありますので、そちらをお勧めします。長期留学においては、向こうの大学の授業を受講しますし、留学資金も時間も大いにかかります。そして、米国の大学の教育システムは日本の大学よりも数倍進んでおり、日本の大学生と違い、向こうの学生は、「勉強」するために大学に通っています。ですから、大学の正規授業を受講する長期留学においては、具体的に勉強したい科目がなければ、苦痛な留学になるでしょう。もちろん向こうの授業は全て英語ですし、米国人を対象に授業は進められて行きますので、興味ある科目でさえ、授業についてい

くのが大変です。

まして、興味の無い授業なら、苦痛で仕方なくなるでしょう。途中であきらめてしまうと、英語の勉強すら適当になる可能性もあります。なぜなら、授業を頑張る事によって、当然英語も上達するのですから。また、専修大学に振り替える単位取得のために、興味ない授業を色々受講する学生もいますが、せっかくの貴重な留学で、それは無駄です。単位を取りたいのであれば、わざわざ時間とお金のかかる留学でなくても、日本の大学で、簡単かつ効率良くできます。ですから、留学の目的意識をしっかりと持ち、トップレベルの教育システムを持つ米国の大学で、興味ある分野を大いに学んで下さい。決して、投資した資金と時間を無駄にはしないで下さい。

最後に、皆さんは向こうでの生活、特に米国は危険ではないかと心配されると思いますが、育った文化は違えど、米国人も私達日本人と同じ人間です。嬉しい時には喜び、悲しい時には泣きます。人間的な常識を持っていますし、専修大学が危険な所にある大学と協定を結ぶ訳がありません。向こうでも、留学生用に米国の生活について、説明会があります。それをよく聞いて守り、自己管理さえしっかりしていれば、何の問題もありません。ただし、この心配は、「なぜ留学したいか」を良く考えてから気にして下さいね。

経済学部国際経済学科 4年
松木 弥来



留学情報

本学国際交流センター主催の留学コース「春期プログラム」を紹介します。是非チャレンジしてみてください。詳細については、国際交流センター発行のパンフレットが、国際交流事務課にお問い合わせ下さい。

英語 短期留学 コース : 申込締め切り 11/17(金)、説明会 7/5、9/21、10/19

ネブラスカ大学リンカーン校	H13.2.1~3.11(39日間)
サスケハナ大学	H13.2.2~3.11(38日間)
シドニー工科大学	H13.2.3~3.11(37日間)
ワイカト大学	H13.2.3~3.17(43日間)

英語以外のコース : 申込締め切り 10/11 日水、説明会 7/4、9/20、10/4

中国語コース	上海大学	H13.2.8~3.15(36日間)
ドイツ語コース	スピークアンドライト	H13.2.4~3.4(29日間)
フランス語コース	CIEL - Brest	H13.2.10~3.11(30日間)
スペイン語コース	サラマンカ大学	H13.2.10~3.12(31日間)
インドネシア語コース	バジャジャラン大学	H13.2.10~3.11(30日間)

LL テープライブラリーには語学を学ぶための教材を数多く用意しています。

〔 映像教材 (VHS)、音声教材 (カセット・CD)、
書籍教材、コンピュータ教材 (CD-ROM) 等 〕

これらの教材は、各言語の先生方が、数ある教材から選びに選んだ教材です。また、LL 自習室は比較的静かで、落ち着いて自習ができると、利用している学生からは好評を得ています。LL 研究室では、各言語の教員が語学相談にも応じています。これらのシステムを大いに活用し、あなたの目的に合わせた語学学習を始めてみませんか？



皆さんの利用をお待ちしています。

LLインフォメーション

LL 研究室の行事紹介

LL 事務室で開催予定のセミナーをお知らせします。LL 教室での授業を履修していない人、神田校舎の人も利用できますので、是非活用して下さい。

セミナー

全世界で通じるスペイン語検定“DELE”にトライしよう！！
スペイン語自習のすすめ「DELE 準備セミナー」

日程：7月4日（火）14:40～16:10

場所：LL 教室 C

定員：30名

受付期間：6/26（月）～6/30（金）

9月22日にもスペイン語セミナーを予定しています。

通訳検定セミナー（仮名称）

日程：10月5日（木）15:00～16:00

場所：LL 教室 C

定員：30名

受付期間：9/25（月）～9/29（金）

*** どちらのセミナーも無料です。**受付は LL 事務室で行っています。上記セミナー以外にも随時「語学習得に役立つセミナー」を開催していきます。詳細は掲示等でお知らせしますので、積極的に参加して下さい。

教材紹介

このコーナーでは新着教材や興味深い教材の紹介をしていきます。

（下線のある教材は生田校舎のみ購読）

TOEIC 公式が'ト' & 問題集（国際ビジネス

コミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会発行）

Education Testing Service が制作した、TOEIC が始まって 20 年、初の公式が'ト'。英語版、日本版両方を用意しています。

ボランティア通訳検定・対策と学習法
通訳案内業国家試験A0-の試験に出るシリーズ
" A0-の受験必携シリーズ

V 通検 B 級のレベルは英検 2 級程度の英語力に時事的な関心があれば合格できます。

V 通検 A 級にも本学学生が毎年 5～10 名合格しているので、その次のステップとして通訳案内業（が'ト'）試験に挑戦しよう。各試験を受験するのに最適な教材です。

海外ビデオ、海外美術館紀行（JTB 出版）
イタリア、韓国、パリ...等の魅力ある世界の観光地や歴史・風土、プラド美術館、アムステルダム美術館、ナショナル・ギャラリー...等の美術館に収蔵された作品を映像で紹介しています。留学前に一度は見ておきたい教材です。

Schau ins Land（Schau-ins-land.com）
中級から上級向けのドイツ語音声コースマガジン。最新のニュースとドイツの様々な話題を耳で聞きながら、テキストを読めます。単語や内容の簡単な解説もあります。

基礎ドイツ語（三修社）

大学の授業に合わせた、ドイツ文法の解説と練習の月刊誌です。特に解説の丁寧さには定評があり、そろそろ??となりかかっているドイツ文法の整理におすすめです。

MAC POWER（アスキー）

LL 教室 D で使用の iMac G4 Macintosh の最新情報や、使い方のヒント、ソフトや機器の紹介等を掲載した月刊誌です。バックカバーを貸し出せますので、是非利用して下さい。

皆さんからの声をお待ちしています
ので、気軽に LL 事務室窓口スタッフに声をおかけ下さい。

専修大学 LL だより 第 8 号

発行日 2000 年 6 月 26 日

（平成 12 年）

編集発行 専修大学 LL 研究室

室長 大森 洋子

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

URL: <http://www.gkk.senshu-u.ac.jp>